

JCPA VISION 2025 (2014 年公表)

2022年現在80億人と推計されている世界人口は、2050年には98億人に達すると予測されています。人口増加とともに経済成長も進み、世界の食料需要も引き続き増加していくと考えられています。しかし、農耕地面積や農業に利用できる水などの資源には限りがあるため、現在は単位面積当りの収穫量の増加によって、食料の供給を支えているのが現状です。今後も収穫量の増加を維持していくためには、優良な種子の開発やかんがい設備の整備とともに、肥料や農薬といった農業資材も必要となります。

農薬工業会は、これからの持続可能な食料供給を支えるため、農薬の果たす役割はますます大きくなると考えています。2013年に迎えた創立60周年を契機に、当会にとっての「将来のありたい姿」及び今後の活動指針について検討を行いました。

また、農業者、行政・研究機関、消費者、農産物流通といった多くの皆様から、当会の役割や期待することなどについてのご意見をいただきました。それらを踏まえて策定したのが、当会の将来ビジョン「JCPA VISION 2025」となります。

将来のありたい姿

1. 「良質な農産物を生産し、豊かな緑を守っていく」。そのためには効果的で安全な農業資材が必要で、その一つが農薬であることは多くの人々に認められている。その結果、農業者が自信を持って農産物を生産し、消費者は安全・安心な食生活を楽しめる社会となっている。
2. 変わりゆく日本や海外の農業現場からのニーズに応えるため、農薬産業は最先端の科学技術を用いた新製品・新技術を開発し、世界の食料供給に貢献している。
3. 農薬工業会は会員の積極的な参加によって、自主的で公正かつ透明性のある事業活動を行い、社会からの信頼を得ている。それによって農薬産業の健全な発展を支えている。

活動指針

1. 農薬工業会と関係する多くの方々とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築し、「安全の先にある安心」を獲得することを目指す。
2. 農業者が生産物に自信を持って消費者に提供するため、農業者に向けた農薬の安全性に関する啓発活動を積極的に行う。
3. 行政・研究機関と連携し、農薬の必要性・安全性に関する科学的根拠を整備して周知することで、農業者、消費者、農産物流通の不安を取り除き、農産物の安全・安心に貢献する。
4. 農薬の適正な使用を促進し、安全な農作物の生産に貢献する。
5. 農業の生産性と品質向上に向けて、新技術の開発を進めるための環境整備を進める。
6. 農薬産業を支える有識者や後継者を育成するために、教育機関、研究機関、学会との幅広い交流を進める。